



## 芦屋市立美術博物館について



芦屋市立美術博物館は、平成3年に芦屋市制施行50周年記念事業として建設され、開館いたしました。

美術部門と歴史部門を併せた複合施設として、芦屋ゆかりの作家の作品を中心に内外の名画、名品を気軽に楽しくご覧いただき、また芦屋の自然や歴史を実際に目で確かめ、体験する学習の場として、皆様に愛され、親しまれる市民の身近な文化施設となることを目指しています。



## 併設施設

### ■ ミュージアムショップ

これまでに行われた展覧会カタログや絵はがきなどを販売。

### ■ 小出楯重アトリエ

洋画家、小出楯重のアトリエを復元。

作家が使用し、作品のモチーフにした 調度類を展示。

### ■ 喫茶 Café de Repos カフェ・ド・ルポ (営業時間：9:00～17:00)

美術博物館の庭園に隣接する喫茶店。



左：喫茶カフェ・ド・ルポ  
右：小出楯重アトリエ

## イベント情報

### 芦屋アート・バザール

4/27～4/28、10/5～10/6 10～16時に開催予定。

### 古文書講座

当館学芸員または館外講師による古文書解読講座。(年間4回開催予定)

### 夏休み“描こう、作ろう”子どもワークショップ

7～8月中3講座開講予定。

### アート・キャンドルナイト

スタンド・ペーパーアートなどを用いたキャンドルを作り、庭を装飾し、光と色の美しさと音楽でクリスマスを演出。

※その他にも様々なイベントを予定しています。詳細につきましては、HPをご覧ください。

- 開館時間 10:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 月曜日(祝日開館、その場合は翌日休館)  
年末年始 / 展示替え期間中

### ■ 観覧料

区分	1人1回につき	
	個人	団体(20人以上)
一般	300円	240円
大高生	200円	160円
中小生	無料	

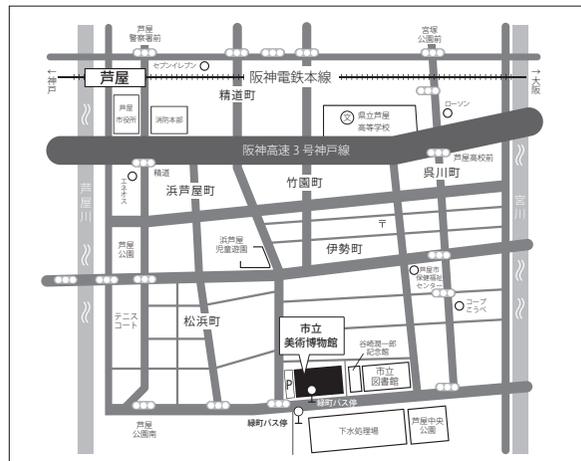
※特別展は展覧会によって料金が異なります。  
 ※高齢者(65歳以上)および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方ならびにその介護者は各当日料金の半額になります。

- 駐車場使用料 8:00～20:00 30分100円  
(利用者は割引あり)  
20:00～8:00 60分100円

### ■ 施設使用料

区分	10:00～12:00	13:00～16:30	10:00～16:30
講義室	2,800円	4,300円	7,100円
体験学習室	4,100円	6,700円	10,800円

### ■ 交通のご案内



[徒歩] 阪神電車芦屋駅から南東へ約15分  
 [阪急バス] 阪神電車芦屋駅南側市役所西側2番のりば(20・26・29・31・32・36系統)  
 阪急電鉄芦屋川駅南側5番のりば(26・31・32・36系統)  
 JR芦屋駅北側5番のりば(20・29・32・36系統)  
 「緑町(美術博物館前)」停留所下車

芦屋市立美術博物館 〒659-0052 芦屋市伊勢町 12-25  
 Ashiya City Museum of Art & History TEL:0797-38-5432 FAX:0797-38-5434  
<http://ashiya-museum.jp/>

2013.3  
 ▼  
 2014.3



# MUSEUM CALENDAR

Exhibition Schedule — Ashiya City Museum of Art & History

芦屋市立美術博物館  
 展覧会のご案内



第1展示室

3/20(水・祝)～5/6(月・振替休日)

世界を魅了した「青」  
一浮世絵名品展 春信・歌麿の「露草青」  
写楽の「藍」北斎・広重の「ペルリンブルー」

本展では鈴木春信(1725-70)、喜多川歌麿(1753-1806)、東洲斎写楽(1763-1820)、葛飾北斎(1760-1849)、歌川広重(1797-1858)などの名品から、青色絵具の変遷を辿ります。露草青から藍、そしてペルリンブルーへと使用される青色絵具は移り変わりました。とくに、葛飾北斎の富嶽三十六景「凱風快晴」や「神奈川沖浪裏」に鮮やかな青色がみられ、その芸術性は高く評価されています。浮世絵師の「青」色へのあくなき挑戦をご覧ください。



上:葛飾北斎《富嶽三十六景 凱風快晴》  
文政12(1829)年 磯川浮世絵美術館蔵  
下:葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》  
文政12(1829)年 磯川浮世絵美術館蔵

5/18(土)～6/30(日)

コレクション版画展  
菅井汲/松谷武判 print works

芦屋ゆかりの画家菅井汲と元具体美術協会の松谷武判は、それぞれ1950年代、60年代にフランスへ渡り多くの版画作品を制作します。日本人としての彼らがフランスで生み出した作品とは。当館のコレクション作品を中心に彼らの作品の魅力に迫ります。



上:菅井汲《フェスティバル》  
1973年 当館蔵  
下:松谷武判《Object-8》  
1973年 当館蔵

7/15(月・祝)～8/18(日)

学習雑誌にみる  
こどもの歴史

大正の時代から発行されるようになった小学館の学年誌やその附録などをご紹介します。大人の方には昔のキャラクターや流行したものを懐かしみ、子どもの方には好奇心をもって昭和の時代について学習して頂きます。



上:《組み立て教材「スーパーカー」》  
昭和53(1978)年 小学館蔵  
下:《王選手ホームランゲーム》  
昭和52(1977)年 小学館蔵

8/31(土)～10/6(日)

アートピクニック vol.3  
マイホーム ユアホーム

本展では、現代美術家や写真家、障がいがあるとされる表現者たちの作品から、生活の場としての家、わが家、家族、郷里といった意味を持つ「home」をテーマに、人や物との記憶・関係性に目を向け、日常と美術との関わり方を見ていきます。



上:辻勇二《心でのぞいた僕の街》  
2011年 作家蔵  
下:浅田政志《浅田家「ラグビー」》  
2009年 作家蔵 ※参考図版2010

10/19(土)～11/24(日)

ゲンビ New era for creations  
現代美術懇談会の軌跡 1952-1957

現代美術懇談会(ゲンビ)は、1952年秋に大阪で創立された研究会です。絵画、彫刻、陶芸、写真、書、いけばな...そのジャンルは一切不問、共通の目的は「新しい造型表現」の探究のみ。懇談会の速記録からは、自身が新しい芸術の世界を構築していくのだという強い自負が窺われます。本展ではモダンアート草創期の熱い息吹にふれ、幾多のグループが活躍した1950年代の美術に迫ります。



第3回ゲンビ展出品目録

12/7(土)～12/23(月・祝)

第62回芦屋市展

「何人も随意に応募することが出来ます」という自由さが特色の公募展として1948年に第1回展が開催されて以来、本展は今年で第62回となりました。本年も多くの方々に親しみをもってもらえる公募展をめざします。前回に引き続き、会期中に来場者の投票で選ぶ賞も設けます。



第61回(2011)年度評議会の様子  
第29回(2011年度)の様子

1/11(土)～2/9(日)

The Collection  
具体円熟/終幕

1954年に結成され、1972年、リーダー吉原治良の死と共に解散した具体美術協会。本展では2011年度の「具体誕生」展、2012年度の「具体躍進」展に引き続き、後期具体の活動をご紹介します。



吉原治良《白地に黒い円》1967年 当館蔵

The Collection  
芦屋ライフスタイル劇場

当館所蔵の作品や資料を中心に阪神間のライフスタイルを紹介します。



中村徳次郎《少女の像》  
1931年 当館蔵

2/22(土)～3/2(日)

第31回  
芦屋市造形教育展

市内の幼稚園・小学校・中学校生徒の作品を全館にわたり展示します。

主催:芦屋市教育委員会  
芦屋市造形教育研究会



第29回(2011年度)の様子

第2展示室

片岡家所蔵浮世絵  
一珠玉のコレクション 風景のなかの「青」

片岡家が所蔵する美しい風景が描かれた浮世絵をご覧ください。



歌川豊国(三代目)《大井川舟歩之図》  
安政5(1858)年 片岡家蔵

芦屋の歴史と文化財

芦屋の歴史を縄文時代から昭和の時代に至るまでをご紹介します。考古学の発掘成果から知られる人々の生活や、和歌に度々登場する歴史、高級住宅地として発達するモダニズム、海と山に挟まれた芦屋ならではの文化にご注目ください。とくに、平成24年の4月1日に文化財として指定された芦屋川の文化的景観、多くの人に愛されてきた風光明媚な土地柄が育んだ芦屋の歴史に触れて頂ければ幸いです。



左:《弥生土器》 寺田遺跡出土 弥生時代 当館蔵  
右:『阪急美術』 昭和12(1937)年 当館蔵

昔の暮らし—和WA 日本の伝統工芸品—

漆器や陶芸品など日本の伝統工芸品から、昔の人々の暮らしをご紹介します。琵琶湖八景があらわされた豪華な重箱などの漆器や、明治42(1909)年から打出で作られるようになった打出焼、絢爛な着物など江戸時代から昭和の時代に至るまで、人々の生活に用いられた品々をご覧ください。



《打掛》 昭和15(1940)年 当館蔵

開館カレンダー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	1 2 ※2013年度の展覧会は 3月2日で終了と なります
赤字: 休館日												
第一展示室	3.20-5.6 世界を魅了した「青」	5.18-6.30 コレクション版画展 菅井汲/松谷武判 print works	7.15-8.18 学習雑誌にみる こどもの歴史	8.31-10.6 アートピクニック vol.3 マイホーム ユアホーム	10.19-11.24 ゲンビ New era for creations 現代美術懇談会の軌跡 1952-1957	12.7-12.23 第62回芦屋市展	1.11-2.9 The Collection 具体円熟/終幕	2.22-3.2 第31回芦屋市 造形教育展				
第二展示室	一浮世絵名品展 春信・歌麿の「露草青」 写楽の「藍」北斎・広重の「ペルリンブルー」											
歴史資料展示室	3.20-5.6 片岡家所蔵浮世絵 一珠玉のコレクション 風景のなかの「青」	5.18-12.23 芦屋の歴史と文化財										1.11-3.2 昔の暮らし—和WA 日本の伝統工芸品—

※都合によりスケジュール・内容に変更がある場合がございます。